

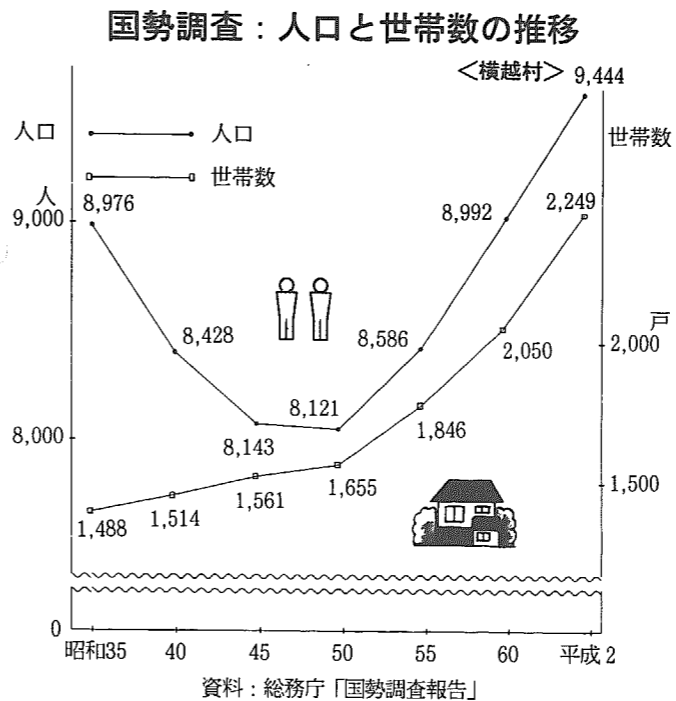
過去と“いま”そして未来を照らす 10月1日(日)

国勢調査にご協力を

二十一世紀への道しるべ
平成7年 国勢調査

十月一日、全国一斉に国勢調査が行われます。大正九年から五年ごとに行われており、今回で十六回目。赤ちゃんからお年寄りまで、日本に住んでいるすべての方が対象となり、住民票の届け出に関係なく、十月一日現在、ふだん住んでいる場所で、世帯ごとに調査されます。

この調査の目的は、わが国の人口を正確に把握するほか、急ピッチで進行する高齢化、国際化、経済の構造や動向、世帯の構成、住宅の状況など、日本の現在の姿を的確に知ることにあります。



調査票に記入していただいた内容を調査員や調査関係者がほかに漏らしたり、統計以外の目的で使用することは「統計法」という法律によって固く禁じられています。どうぞ安心して調査票にご記入ください。

プライバシーは守られます

調査員がお伺いします

簡単に安心です。調査内容

調査票の配布



9月23日(土)～30日(土)

10月1日(日) 調査期日

調査票の収集



10月1日(日)～8日(日)

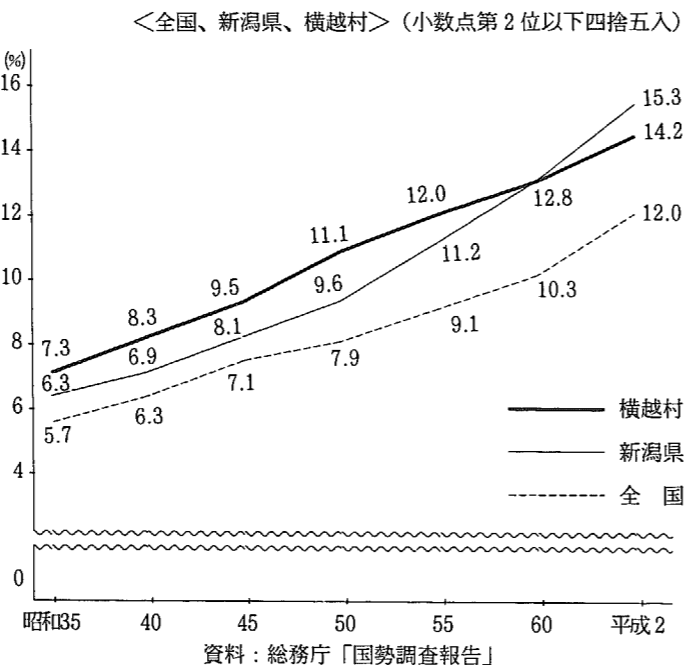
国勢調査はどのように利用されるの？

国勢調査の調査結果から、数々の統計が得られますが、それらは、将来人口の推計や、各種の行政を行うための基礎資料として幅広く利用されます。

高齢化社会対策への利用

日本の人口の高齢化は、年々急速に進んでおり、高齢化社会を見据えた対策をとる必要性が国や県だけでなく、市町村においても一層大きくなっています。国勢調査によって高齢化の状況や傾向、高齢者の実態が正確に把握され、老人医療・福祉対策に役立てられます。

国勢調査：総人口に占める65歳以上人口の割合の推移



結果は暮らしに活かされます

調査の結果はこれからの行政を考えていくうえで大切な資料となり、私たちの暮らしのさまざまな分野で活かされます。あなたからご記入いただいた答えから作られる統計が、みんなの貴重な財産となり、安心できる未来、より快適に住みよい日本、そして横越を築くための道しるべとなります。

十月一日、国勢調査に、ぜひみなさんのご理解、ご協力をお願いいたします。

知られざる統計物語

終戦直後、吉田茂首相がマツカーサーに「米を捌万トン援助してくれないと日本人はみな餓死してしまう」と訴え、援助を取り付けたところ、翌年、マツカーサーが「放出した食糧は要求の1/5の70万トンに過ぎないが、餓死者は出ていない。統計が悪いのではないか」と言うと、「仰せの通り日本の統計は貧弱、統計がしっかりしていたらアメリカと戦争などしなかったでしょう」と答えたので、彼は笑いながら「統計をしっかり作れ」と言ったそうです。

調査票の記入は黒鉛筆で

ご記入いただいた調査票は「光学式マーク読取装置」という機械にかけて読み取られます。

このため、調査票の取り扱いについては、次の点にご注意ください。

- 汚したり、折ったり、丸めたりしないでください。
- かならず黒鉛筆で記入してください。ボールペンや万年筆は黒色でも絶対に使用しないでください。
- マークで記入する箇所は、あてはまる○を●のようにぬりつぶしてください。
- 文字や数字で記入する箇所はわくからみ出さないように記入してください。

